第79回

実は隣のスゴイ人

曽於市内のスゴイ人にスゴイ人を紹介してもらうこのコーナー。前回のスゴイ人、藤本高明さんにご紹介いただいたこの方は「礼儀正しくて親しみやすく常に何事にも積極的に取り組む人で、幾度かの挫折を乗り越え明るい社会の実現に励んでいるスゴイ人」とのこと。

【今回のスゴイ人】
インターテック・サーティフィケーション株式会社
ＩＳＯ（アイエスオー）審査員

安楽（あんらく） 龍一（りゅういち） さん

今回は、鹿児島県内に４人しかいない国際的な認証規格『ISO』の審査員の一人でISO9001（品質）・ISO14001（環境）・ISO45001（労働安全衛生）の３つのマネジメント規格の審査員をされている安楽龍一さんに話を伺ってきました。

安楽さんは高校まで財部町で過ごし、大阪府の大学に進学後京都で出版社に就職しました。営業の仕事をしていて28歳の時に、テレビ局の環境保全キャンペーンでポスター制作の仕事に携わりました。

「観光客の環境意識を高めるポスターで、当時はISOという言葉は聞いたことがなかったけど、ISOの環境マネジメントに興味を持つきっかけになった仕事でした」

30歳で財部へ帰って来てからは電子部品に特殊なラベル印刷を行う会社に就職。会社がISOの認証を受けることになりそのために勉強をしました。この時にISO9001（品質）とISO14001（環境）のマネジメントシステムの取得に関わりISOに関する知識を深めました。

その後安楽さんは講習・試験を受けて45歳でISO審査員補の資格を取得。ISOコンサルタントとなり10年間の実務経験を経て、55歳でISO審査員になりました。55歳でのISO審査員合格は当時としては若い方でした。

「ISOは信頼できるモノやサービスを提供できるという証になります。国際認証なので輸出をする際の信頼にもなります」

そのほかに会社の文書管理や社員の意識改革につながるメリットもあるそう。

「ISOは一度取得して終わりではなく年1回以上の維持審査と3年に1度の更新審査があります。ISOには『継続的改善』という基本理念があるので審査では計画・実行・評価・改善のサイクルができているか業務記録をもとに必ずチェックします」

企業に対して付加価値をもたらす改善点を伝えることを大切にしているそう。

審査のため九州全域の企業を回る安楽さん。一年の半分は出張で年間100社の審査を行います。

「最近は建設業を中心に認証件数が増加しています。それは公共工事において認証を受けていると入札参加資格審査の際に加点になるからです」

特にISO45001の労働安全衛生マネジメントシステムは点数配分が多く重要視されているそう。

審査員になり13年。現在は鹿児島県内で最年長の審査員となりました。

「この仕事に定年はないので健康に気を付けて75歳までは審査員を続けていきたいです」

と話してくれました。